

アピール(案)

「年寄り早く死ぬということか」。

4月から75歳以上の人たちが強制的に加入させられる後期高齢者医療制度の、あまりにひどい内容が知られるにつれて、怒りが急速に広がっています。

後期高齢者医療制度では、これまで保険料負担のなかった扶養家族も含めて、75歳以上のすべての人たちから保険料が徴収されます。月額15000円以上の年金受給者は、年金から保険料が天引きされます。保険料を滞納すれば保険証を取り上げられ、窓口で医療費全額を負担しなければならなくなります。さらに政府は、高齢者が長期入院するための病院のベッド（療養病床）を6割も減らそうとしています。診療報酬を若い世代とは別建てにし、受けられる医療を制限することも検討されています。多くの病気を抱えている高齢者だけをひとまとめにして、若い世代と差別する医療制度は、世界に例を見ません。

高齢者はこれまでも、医療費の負担増や年金のカット、介護保険料の値上げなど、「痛み」を押し付けられてきました。このうえ後期高齢者医療制度が導入され、乱暴な療養病床の削減が進められれば、深刻な事態に拍車がかかるのは必至です。

75歳以上の人たちは若い頃「お国のために死ぬ」と教え込まれた世代です。戦後は焼け野原となった日本を復興させるために歯を食いしばってがんばりました。今は年金だけで、ささやかに暮らしている人がほとんどです。そんな人たちに新たな負担を押し付け、「長生きしてすみません」と言わせていいのでしょうか。

後期高齢者医療制度の中止・撤回、療養病床の削減反対、70～74歳の医療費窓口負担2割への引き上げをやめよの声をさらに広げ、国や山梨県、市町村、山梨県後期高齢者医療広域連合などに届けましょう。安心できる医療制度をつくり、「長生きしてよかった」と思える社会をつくるために力を合わせましょう。

2008年2月28日

後期高齢者医療制度中止・撤回 療養病床削減反対2・28県民集会